

市長記者会見記録

日時：2021年3月16日（火）14時00分～14時24分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

<市政一般>

<新型コロナウイルス感染症について>

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日の議題は市政一般となっております。

早速質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【日経（幹事社）】 幹事社の日本経済新聞です。

まず、緊急事態宣言について、延長になるのか、あるいは解除になるのか、この辺について、市長御自身、川崎市内の状況を見て、どのようにお考えになっているでしょうか。

【市長】 そうですね。それぞれの知事が足並みがとか言っている話がありますが、けれども、本県の知事は解除に前向きなような発言をされておりますけれども、私も、何と言いますか、この人の流れって緊急事態宣言中にあるにもかかわらず、人の出方というのは非常にすごく出ているなという状況を見ると、もはやこの状態自体が収束に向かうというのがあまり考えられないなと思っておりますので、そういう意味では、解除というのもありとは思っています。

ただ、解除すれば、間違いなく感染は増加しますので、これ、いつものことですがけれども、ある意味、バランス問題だと思っておりますので。ある意味、解除ということになれば、それは当然理解できるというふうに思います。

<川崎市長選挙について>

【日経（幹事社）】 はい。あと11月に任期満了となる市長選ですけれども、いまだ福田市長、態度を表明されておりませんが、4年前、ちょうど3月に記者会見という形で態度を表明されておりますけれども、いつ、どのような形で、その辺の態度を明らかにされるのか。もちろん、今、この場で表明されても構いませんけれども。

【市長】 先日も議会で御質問いただいたんですが、現時点では、とにかく感染、

この状況というのをどうやって抑え込むかということと、それからワクチン接種という大きな事業もありますので、しっかりコロナ対策をやっている現在進行形の中で、次のことというのはなかなか申し上げられる状況にないと思いますので、そういった意味では、まだちょっと難しい、態度をどうするかということを決めるのは難しいなと思っています。ちょっと目の前にあることをたんとやっていかなきゃいけないと思っていますので。

【毎日（幹事社）】 今の質問の関連ですけれど、要するに、今はもうコロナのことしかない、やるべきことはコロナしかないという感じですか。

【市長】 正直、コロナの関連で言えば、本当に市民生活全般、多岐にわたっているんで、感染防止の話と市民生活のところで本当に苦勞されている方、厳しい状況にある方ってたくさんいるので、それは何もビジネスだけの話じゃなくて、福祉的な観点だとか、様々な厳しい状況があるので、そういったところを丁寧に見ていかないと、次の話だとかということなんて当然ないわけで、そのところにしっかり対応していくことに意識を集中させたいという思いがあります。

《新型コロナウイルス感染症について》

【毎日（幹事社）】 冒頭の質問と重なりますけれど、ここ10日ぐらいを見ると、大まかに言えば、20人ぐらいで感染者が推移していますけれど、この状況については、どういうふうに。なんか横ばいみたいな感じに……。

【市長】 そうですね。先日もコロナの、あれは部会だったか、岡部先生とも少し話したんですけれど、僕もやっぱり20ぐらいを前後に推移している状況というのは、以前からずっと岡部先生が言っていた、これ、ボトムと考えていいですかという話をしていたんですが、岡部先生もそういう感じじゃないだろうかと見ていました。ですから、これから本当にゼロになるということは極めて難しいというか、ほぼ不可能に近いと思っているので、この下限の状態をどこまで維持できるかというところが大変重要だと思っています。

先ほどの感染が、緊急事態宣言を解除すれば、当然、人の動きというのは今まで以上に自由な雰囲気が出てくると思うので、感染者数というのは当然上がってくると思います。その上がり方をどれだけ抑制することができるかというのが、やはり市民の皆さんの意識と、それから行政として取り組まなくちゃいけない病床の確保だとか、とにかく早期にワクチンの準備をするだとかという、そういう両面を重ね合わせて対処していかななくちゃいけないことだと思っています。上がり方をどうやって……、本当に上がってきちゃったら、また緊急事態宣言というか、強い措置というのは当然必

要になってくると思いますので、そのことを織り込んだ上での解除ということに、当然皆さん、意識はされていると思いますし、私もそういうことを想定して解除すべきことだと思っています。

【産経（幹事社）】 産経新聞です。私も関連して、緊急事態宣言の解除という報道が出ている中で、やっぱり市民の皆さんの中にも、ようやく解除かということで、いろいろ人の動きが活発になりそうなことも予想されるんですけども、改めて市長から市民の皆さんに呼びかけたいことというのはどういったことか、お聞かせください。

【市長】 そうですね。皆さん、基本的な感染対策はやっているよという思いが強いと思います。やられている方は本当に非常にしっかりやられていると思いますし、ただ、一部、報道ベースだけではないですけども、やはり緩んでしまって、思いっきり昼カラオケみたいな話というのは、ちょっと皆さん、普通に考えてもびっくりするという話の事例もあるようですから、そういった基本的なところは守った上でということを改めて確認していかないと、何でもありなんだということには絶対なっていけないということは、分かっている人にしてはもう分かっているという話なんですよけれど、思いっきり緩んじゃっている方には強く要請したいと思います。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

幹事社からは以上です。各社さん、お願いします。

《光熱水費の不適切処理について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけども、今日の午前中の健康福祉委員会で、井田病院の再発防止策の再報告ということで、報告があったんですけども、市長はまず、その再報告という内容については見ましたでしょうか。

【市長】 ええ、概略は報告を受けました。

【神奈川】 再び出されたものの内容については、どのように思われましたでしょうか。

【市長】 議会から指摘されてきたことも含めて、改善されているとは思いますが、非常に生の声みたいなものもちゃんと書かれていますので、その上での再発防止ということで、これからしっかり取り組んでいくということでもありますから、このようなことが2度とないように思っております。

【神奈川】 それで、今日の委員会の中で、委員からコンプライアンス室の方とか、病院局の方が来て対応されていたんですけども、例えば、コンプラのほうに、市長か副市長からいろいろ指示はあったのかという質問が出て、それに対してはなかったですというような回答もあつたりしたんですけども、この問題では未収金が全部回

取できるか分からなかったりとか、レストランが実際に撤退してしまうという、目的としていたものが全部駄目という状況もあると思うんですけれども、しかも、再発防止策も一度出したものが突き返されてもう1回という、ちょっと異例な状況もあると思うんですけれども、そういうことも含めて、行政の長として、御自身の責任というんでしょうか、あるいは関わり方について、今何か思われることはありますでしょうか。

【市長】　　これまで私が指示してきたことというのは一貫しておりまして、それは再発防止策というのはしっかり取りまとめるということと、それから未収金の問題というのは、しっかり法的手段も考慮してやっていくということは既に指示していますのと、それから、レストランについても、これまでもこの場でも申し上げてきたと思いますが、再開するという事は非常に大切なことですので、それに向けて努力するようにということ、これまでも言ってきておりますので。そういった意味で、指示がないというのは、改めてということではないですけれども、これまでも言ってきていることですから、変わりはないということであります。ですから、引き続き両方のことについては、しっかりとやっていくということはこれまでも指示してきていることですし、これからも変わることはありません。

【神奈川】　　市長として、やはり、ちょっと、病院局が中心となっているいろいろな動いて、今回再発防止とかもまとめたという状況だと思うんですけれども、市長として改めて、川崎市の長として、今回のことについて市民へのメッセージとか、そういうことをちょっと教えていただけますでしょうか。

【市長】　　1つ、今回の検証のところは病院局がというよりも、最初御案内のとおり、病院事業管理者から自分たちではということで、市長部局のほう、コンプラ室ということでもありますけれども、まず調査に入ってという形でやりましたので、そういった意味では最初からかんでいたということであると思います。とはいっても、任命権者というのは、病院事業管理者ではありますけれども、市総体としては私に責任があることでもありますので、こういった事態を招いたことについては本当に深くおわびを申し上げたいと思いますし、こういった未収金の問題も、今回を契機にほかの庁舎もそういったことがないかということも調査しましたし、しっかりこれからもやっていきたいと思っておりますし、繰り返されないようにしていかなくちゃいけないなとは思っています。

【神奈川】　　ありがとうございます。

《台風19号の影響による浸水被害に対する検証結果について》

【読売】 読売新聞です。昨日の環境委員会の発表で、等々力ポンプ場の見直しが出たんですけれども、内容としては、運用を見直せばミュージアムは浸水しないことが分かりましたというものだったんですけれども、それに対して4月の報告書だと、やることはやっていたよという内容であって、ただ、今回のを見ると、じゃ、やり方次第では沈まなかったんじゃないのかなというふうにも読めたんですけれども、その辺、どのように見られたか教えていただいてもいいですか。

【市長】 僕、今日の記事を見て、若干違和感を持ったんですけれども、説明をちゃんと上下水道局は、担当いますか、説明しているのかなと思ったんですが、もともとの使うというふうなことではないものという装置を、こういう運用をすれば、こういうことができたということなんで、そもそも利用するというものではないものを今回使うということですから、それを、あたかも使っていれば、できたんじゃないのかというのは、ちょっと前提が違うんじゃないでしょうかと。ちょっと誤解を受けんじゃないかと。補足、お願いします。

【上下水道局】 上下水道局でございます。よろしくお願いたします。

等々力ポンプ場の運用の見直しにつきましては、令和元年東日本台風の浸水被害を受けまして、その被害の最小化を目指して、等々力ポンプ場の既存の設備を有効活用した取組について検討してまいりました。今回、等々力ポンプ場の中の雨水ゲートですとか、連絡ゲートですとか、その辺の運用を見直すことによって、浸水被害が解消というか、最小化できるというのをシミュレーション等を用いて効果の検証までできましたので、今後、そのような運用をしていきたいと考えておるところでございます。

以上です。

【市長】 よろしいでしょうか。

【読売】 ということは、ポンプを使うという考え方そのものが、そうじゃなかったということですか。

【市長】 そもそも、それを、今回というのは、どんな今までの既存のものを使えば、同じような被害を受けないかということで、そもそも使うものではなかったものを運用することによって、こういう被害を軽減することはできるというものであるんで、なんでそもそも使わなかったんだ、そもそも使うものだったんじゃないのみたいな話では全くないということは御理解いただきたいと思うんです。

ですから、何か、そもそも使うはずだったものを運用していなかったから起きたんだというのは、それはもう認識として違うということは申し上げたいと思います。

《学校における体操着下の肌着の着用について》

【t v k】 テレビ神奈川です。先日の委員会で、市内の一部の小中学校で、体操着の下に肌着をつけることを禁じているということが明らかになり、それについて批判するような声が、その報道について出ておりますけれども、それについての今の市長の受け止めと、状況についての認識をお聞きしたいんですけれども。

【市長】 何かネットですごくいいことになっているようなんですけれども、そもそも見直したとかという話になっていきますけれども、そもそも規定していない、教育委員会でまとまっていないものについて、見直しも何もないんじゃないかと、僕は本会議場での答弁を聞きながら思ったんですけれども。それがネット上になると、いろんなものが、衛生的なとかいう話が、他都市の成長の段階に応じてみたいと話とごっちゃになって、何か変なふうになっているなと思います。

僕もちょっと気になって、教育委員会に人を介して聞いてみたんですけれども、市内の受け止めは非常に冷静で、私が聞いた時点では10件ぐらいしか電話の問合せもないと。多分、市外か、市内かどうかわかりませんが。ということなので、普通に考えれば、普通だろうと。よくこういう話ってあるんです、教育委員会の話で。水を飲んじゃいけないみたいな、水筒の水を飲んじゃいけないとかいう学校のルールがあるみたいな話があって、そんなことないだろうという話で、よく聞いてみたら、そうではなかったとか、あるいは、ちょっと指導が間違えたとかいう話で、普通に考えて普通に対応すれば、まともな話だと思うんですが。見直すというか、チェックして、ちゃんと指導が行き届いているのかということについて、改めて確認するということでは大事なんじゃないかとは思いますが。

【t v k】 分かりました。ありがとうございます。

【朝日】 朝日新聞ですが、今の関連なんですけれども、ちょっと今の教育委員会の説明とか、学校の実情を聞くと、私も同じように受け止めたんですが、このように広がってしまっているということですね。これ、どの辺りに問題があったというふうに。

【市長】 話題が広がっているということですか。

【朝日】 話題が。ええ、何か、もう川崎がひどい教育をしているだとか、変態教師がいるだとかというような、ひどいことになっているのは御存じかと思うんですけれども。

【市長】 恐らく、これは国のほうでも問題となっている、いわゆる児童・生徒に不適切な行動みたいなものを行った、何ていう表現だったですかね、という教員をど

うするののかという話題というのが、国政でもいろいろ議論になっていると思いますが、そうした大きなトレンドの中で、この下着の話というのが、何というか、引っかかる部分があったんじゃないかと、僕はそうなんではないかなと思いますけれども。特にネットの世界なんかはですね。

《新型コロナウイルス感染症について》

【読売】 読売新聞です。17（~~18~~）日に医療関係5団体との会合が予定されております。この場では、議題様々あるかと思えますけれど、直近の課題としてはワクチンの話かなと思うんですけど、市長はどんなお話をされたいとお考えでしょうか。

【市長】 実は、医療関係5団体との会議というのは、ずっと定例的に行っている話でして、これはコロナの前の新型インフルエンザの対策を医療5団体でしっかりやっていたという枠組みがあって、定例的にやっているんですが、今回もこの機会だからぜひという話で、今のコロナの現状とワクチン接種への課題等、しっかりと意見交換できればと思っております。医療関係5団体と連携をしっかりやらないと、ワクチン接種等々うまくいかないというのもありますから、そこはしっかり情報共有していきたいと思っております。

【読売】 あと予約に関するトラブルの想定などがいろいろ各報道でもなされているんですが、川崎市での予約のシステムといいますか、方法、段取りについて、今、もしお考えのことがありましたらお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 まず、いろいろ課題があってあれなんですけれど、接種券の配付は早めに一気にまいてしまっても、実際の予約ができないとか、いつになったらということが混乱を招くといけませんので、そういった意味では段階を踏んで、接種券は送付したいと思っております。

一番最初の優先接種する巡回接種の方ですね、あそこは、分かったらそこに送りますけれども、接種前には。それ以外の、75歳以上の方、あるいはそれ以下の65歳以上の形になるんだと思いますが、2段階に分けて、4月中旬と後半、あるいは5月に、ちょっとまたぐかもしれないけれども、そのぐらいで発送していく形で、分けて発送していく、そして予約を受け付けるという形になっていくと思いますが。あと予約の仕組みというのはしっかりやっていきますけれど。

それから、課題とすれば、接種したときに医師とか医療スタッフが、この人、接種しましたよという記録をつけていかなくちゃいけない入力作業というのがありますが、既存の予防接種台帳の入力の関係ですと、大概2か月ぐらい、入力が反映されるまでラグがあるんですけども、それではもう全く追いつかないので、直接、例えば、

個別接種を行っていただいているクリニックに入力作業をお願いすることになると思
うんですけども、それでタイムリーに反映していくと。ただ、それには人手だとか、
それなりの労力というものが必要なものですから、それへの支援だとかいうことをし
っかりやっていかなくちやいけないと思いますし、各段階で課題はありますけれど、
ある程度、その課題については、今、担当のところで詰めているところですので。
ワクチンが届けられるスケジュールには、しっかりできるようにしておきたいと思っ
ています。

【読売】 ありがとうございます。もう1点だけ、すいません。予約システムについ
てなんですけれど、アプリを使って予約を取るという自治体も、全国でちらほらござ
います、県内にもございますけれども、そういった方法は、一方で慣れていない高齢
者もいると思うんですけど、市民の実際の予約方法について、今、何か思い描いて
いることはございますでしょうか。

【市長】 もちろんスマートフォンだとか、コンピューターとか、PCで入力でき
るような形でやっていくということはもちろんのことですけども、もちろんそれが
できない方に対して、電話で予約するとかという受付も、もうさせていただく予定に
しておりますし。ですから、そういった意味では、利便性の高い形にしていきたいと
思いますけれど。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 そのほか、いかがでしょうか。御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の市長記者会見、終了といたします。ありがとうございます
た。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した
上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355